

ハヤブサの落とし物 (Part5)

—教材としての活用—

溝田浩美 (人と自然の博物館地域研究員)

はじめに

ハヤブサは鳥類を主な餌としている昼行性猛禽類である。偶然が重なり 2002 年 10 月から自宅前の鉄塔を狩りの場として利用しているハヤブサの観察や、餌となった鳥類の羽などの回収をすることになった。観察は 2009 年の 7 月まで続き、気の向いたときに断続的にとった観察ノートは 25 冊に、回収した羽などもかなりの量になった。

これらを「共生のひろば」において第 1 回から第 4 回まで“ハヤブサの落とし物”として発表してきた。Part1 としてノートに描き溜めた捕食鳥類の残骸のスケッチを、Part2 として“体羽”を、Part3 として“飛翔羽”を、Part4 として“残骸のはく製”を製作し展示してきた。

これらの展示物は、自然の素晴らしさや、身近な環境に関心を持っていただく教材として非常に役立った。“ひとく地域研究員”として 10 年、どのような形で地域に貢献できるのか試行錯誤してきた中で、最も活用してきた“ハヤブサの落とし物”を中心に今までの活動をまとめてみた。



“ハヤブサの落とし物”の羽や翼の標本

活動内容

これまで、幼児から社会人まで幅広く活動の対象としてきた。最も多くの割合をしめたのは小学生で、次いで高校生であった。これは継続的に活動できたことが大きい。

神戸市立有野児童館では、2007 年から 2012 年までの 5 年間、“人と自然の博物館”の先生方にも協力していただきながら 25 回もの体験型の環境学習“おもしろ理科教室”をおこなった。この中で“ハヤブサの落とし物”は少しずつ形を変え 3 回登場させた。これらの活動から生き物に関心を持った子どもたちと一緒に、博物館の“いきものかわらばん”に 2 年連続出品でき、賞もいただいた。

長谷川先生に誘っていただいた兵庫県立西宮甲山高等学校の“甲高自然観察リーダー養成講座”には、2010 年から年数回講師として参加し 6 年になる。自然に恵まれた高校の立地を活かした、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭を目指す生徒たち相手の講座である。ここでも“ハヤブサの落とし物”は毎年貴重な教材となっている。



2015.11.20 兵庫県立西宮甲山高等学校
甲高自然観察リーダー養成講座

小学校での講座としては甲子園学院小学校の“夕焼けセミナー”に2008年、2009年と行かせていただいた。この時初めて教材の羽と下敷きを使ったゲーム形式の羽当てクイズを製作した。子どもたちは積極的に参加してくれ、実物の標本に興味津々だった。



2009.6.23 甲子園学院小学校 “夕焼けセミナー”

2010年には神戸大学サイエンスショップの“市民の科学ミニミニ発表会”で、大学生や社会人向けに“ハヤブサの落とし物”の話をする機会を得た。子どもたちとはまた違った雰囲気の中、大学の先生方を交え、いろいろな話ができた。

2012年には文一総合出版からハヤブサの原稿依頼があり、BIRDERの9月号に“食痕からハヤブサの食性を探る”というタイトルで掲載していただいた。

2013年の有野台児童館での“夜間開館”や、2014年のユースステーション北神（NPO法人S-space）での“夏休みおたのしみ教室”では、幼児を含む親子の参加が多く、歌やゲームを交えての環境学習の場となった。

“ハヤブサの落とし物”以外では、大谷先生と一緒に、佐用町昆虫館のスタッフや神戸市立道場小学校の自然学校へ標本づくりのお手伝いなど、さまざまな昆虫関連の講座や活動に参加する機会をいただいた。これらの経験は私の大きな財産となり、本当に幸せな時間であった。



2010.3.31 神戸大学サイエンスショップ
“市民の科学ミニミニ発表会”

今後の活動に向けて

“ハヤブサの落とし物”の講座も興味を持って参加してもらえるようクイズ形式にしたり、実際に触ってみたり、自分たちで同定したり、実際に体感できることを大切にしてきた。それを野外の活動につなげることができればと思う。先日、甲山高校での講座の後、野外で捕食された鳥の羽を実際に回収する機会に恵まれ、今まで何気なく見ていたものが生徒たちの中で変わる瞬間を見て感激した。小さな積み重ねではあるが、今までも多くの方々との出会いの中で活動を続けることができた。今後もまた新たな出会いの中で、小さな種をまけたらと思う。